

御礼

秋季審査会につきまして、ご審査いただきありがとうございます。昨年におきましては至らない点が多々あり本年こそは昇段審査には合格したいという気持ちが強くなりました。

稽古では常に厳しくご指導いただきました。特に業を反復練習するだけでは意味がなく、如何に現在行っている業はどのような場面で使用されるのか。目線の使いや体捌き、仮想の敵をイメージしているのかなど正確かつ確実な動きができているのかを問われました。

けれども、自身の思い入れが強くなり過ぎ、過剰な想定で余計な動きや無駄な力が入り過ぎ、正しい業からどんどん遠のいてしまいました。これは日常生活でも反映され、10段階で9段出来ても残りの一段が悪しき結果であれば他者から見た自身への印象が悪しき者となってしまいました。「過ぎたるは及ばざるがごとし」という諺とおりです。

館長・師範からは高校1年生の時、入門当初に仰られた忘れられない言葉があります。「剣を振るその姿は自身の心を写す鏡のようなものである」という言葉です。真剣に稽古を取り組み且つ真心を込めて一つ一つの業を行うことで、道場以外でも私生活において取り組む姿勢が顕著に表れ、少年から青年へと一歩ずつ業とともに成長できてきているものだと考えております。入門してから13年と経ちましたがその意味を少しでも理解できるように謙虚な姿勢を忘れず日々精進あるのみです。

これまで館長・師範には大変お世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。錬心館の一員として清風会古武道演武大会や西国武道会館完成こけら落とし、平成三十年記念福岡県武道大会という各種大規模な演武大会を通じ、先生方のご多忙な中、業のご指導や詳細な指摘をいただき、様々な人生経験を積むことができました。これからもご指導いただけた様々な経験を踏まえ次世代へと繋ぐことを目指します。

平成三十年十二月一日

岩本 真明